

鹿児島県 高等学校教育に関するニーズ調査【概要】

1. 調査の目的

本調査は鹿児島県における中学生の進路選択に関する意識や高等学校教育に対するニーズ等を把握するため、県内の国公立中学校等及び公立高等学校の生徒を対象として実施したものである。

2. 調査の対象

中学生調査は鹿児島県内の国公立中学校2・3年生（義務教育学校8・9年生）を対象に実施。
高校生調査は公立高等学校に在籍する全生徒を対象に実施。

3. 調査の期間

令和8年7月1日～令和8年7月17日

4. 調査の方法

県教育委員会から各学校を通じて、対象生徒に回答を依頼。
WEBフォームより、スマートフォンやタブレット等で回答。

5. 有効回答数

中学生調査は13,008件（回答率 約45%）、
高校生調査は14,902件（回答率 約52%）の回答が得られた。

6. 回答者の属性

学年

中学生

48%

52%

- 2年生（義務教育学校8年生）
- 3年生（義務教育学校9年生）

高校生

34%

32%

33%

- 1年生
- 2年生
- 3年生
- 4年生（奄美高校・定時制のみ）
- Aグループ（開陽高校・通信制・普通のみ）
- Bグループ（開陽高校・通信制・普通のみ）
- Cグループ（開陽高校・通信制・普通のみ）
- Nグループ（開陽高校・通信制・衛生看護のみ）
- 学年区分なし（開陽高校・全日制・定時制のみ）

4年生 0.1%
Aグループ 0.2%
Bグループ 0.3%
Cグループ 0.3%
Nグループ 0.0%
学年区分なし 0.1%

性別

中学生

48%

50%

2%

高校生

50%

48%

2%

- 男性
- 女性
- 回答しない

学区

中学生

31%

9%

15%

19%

18%

3%

高校生

46%

8%

9%

13%

14%

6%

- 鹿児島
- 南薩
- 北薩
- 姶良・伊佐
- 大隅
- 熊毛
- 大島

希望進路

中学生

56%

22%

14%

- 県内の公立高校
- 県外の公立高校
- 県内の私立高校
- 県外の私立高校
- 高等専門学校（高専）
- 専修学校・各種学校
- 就職
- 未定
- その他

県外の公立高校 2%
県外の私立高校 3%
その他 1%
高等専門学校（高専） 3%
専修学校・各種学校 0.2%
就職 0.2%

学科

高校生

その他普通教育を施す学科 0.2%

総合学科 2%

その他専門教育を施す学科 2%

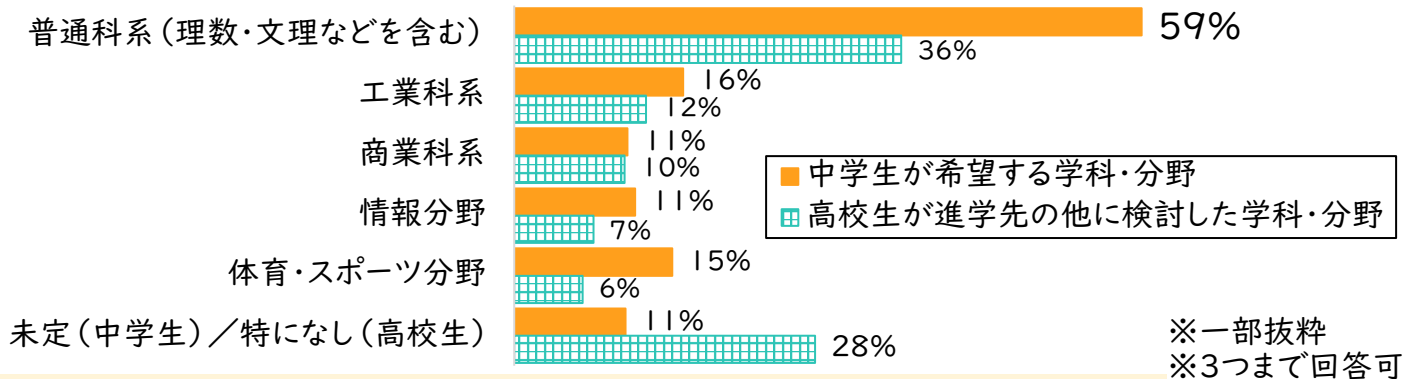
- 普通科
- その他普通教育を施す学科
- 農業に関する学科
- 工業に関する学科
- 商業に関する学科
- 水産に関する学科
- 家庭に関する学科
- 看護に関する学科
- 福祉に関する学科
- 理数に関する学科
- 体育に関する学科
- 音楽に関する学科
- 美術に関する学科
- その他専門教育を施す学科
- 総合学科

農業に関する学科 5%
水産に関する学科 1%
家庭に関する学科 4%
看護に関する学科 0.2%
福祉に関する学科 0.6%
理数に関する学科 0.9%
体育に関する学科 1%
音楽に関する学科 0.6%
美術に関する学科 0.5%

7. 結果分析

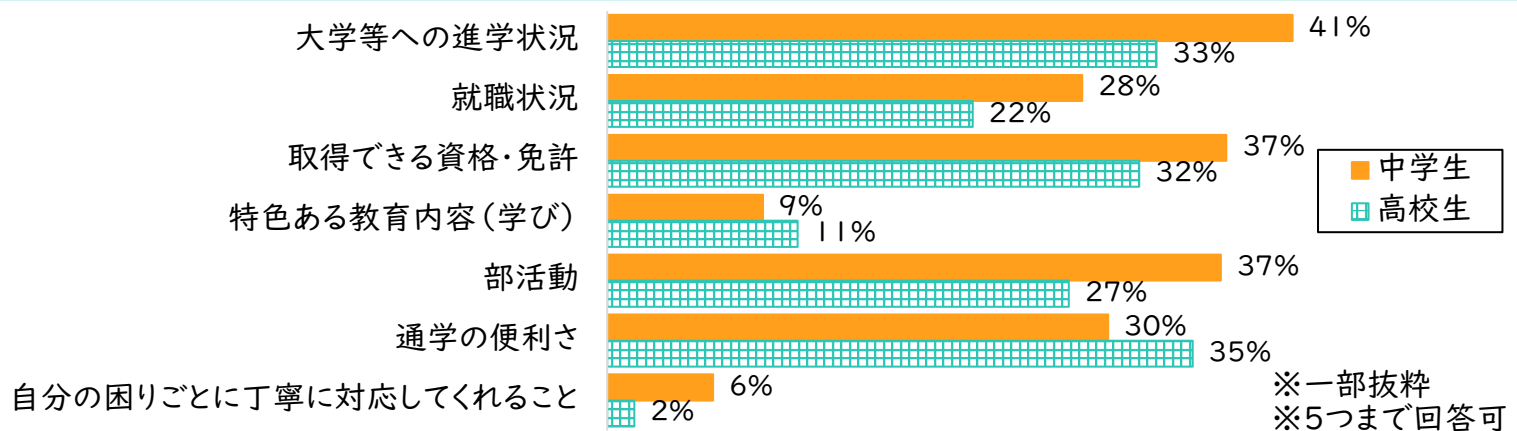
学科・分野の希望

中学生の約6割は「普通科系（理数・文理などを含む）」を希望しています。続いて、「工業化系」（16%）、「体育・スポーツ分野」（15%）、「情報分野」（11%）、「商業科系」（11%）の順で割合が高くなりました。また、高校生が、入学前の志望校の検討段階で、現在通学している学科等以外の学科・分野を検討したかを尋ねたところ、「特になし」が28%であり、約7割は、他の学科・分野を検討していたことが分かりました。



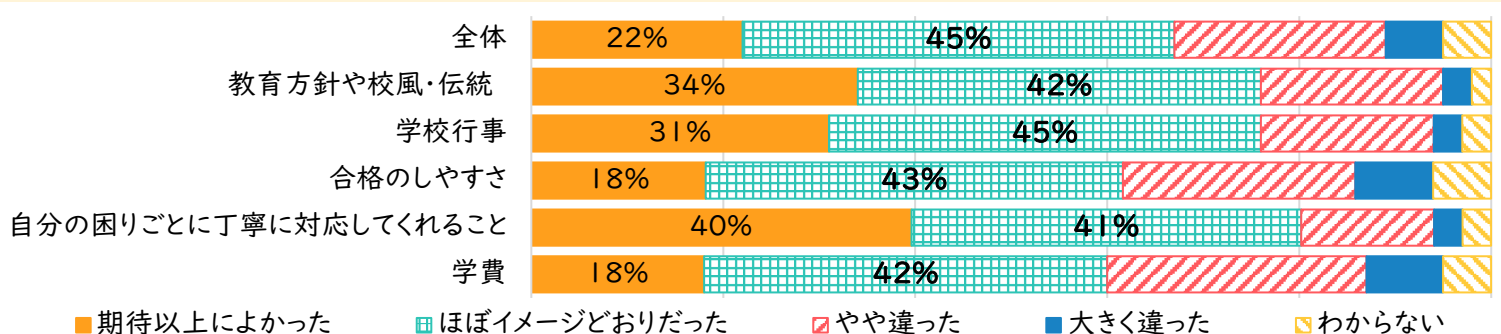
高校選択の基準

中学生の高校選択においては、「進学状況」や「取得できる資格・免許」、「部活動」が重視されますが、「通学の便利さ」や「特色ある教育内容」、「丁寧な個別対応」など重視する項目には多様性がみられました。一方で、高校生は中学生と比較して「通学の便利さ」を重視する傾向が強くなります。実際に高校生活が始まると、毎日の通学時間の重要性を実感する場面が多くなることが要因と考えられます。



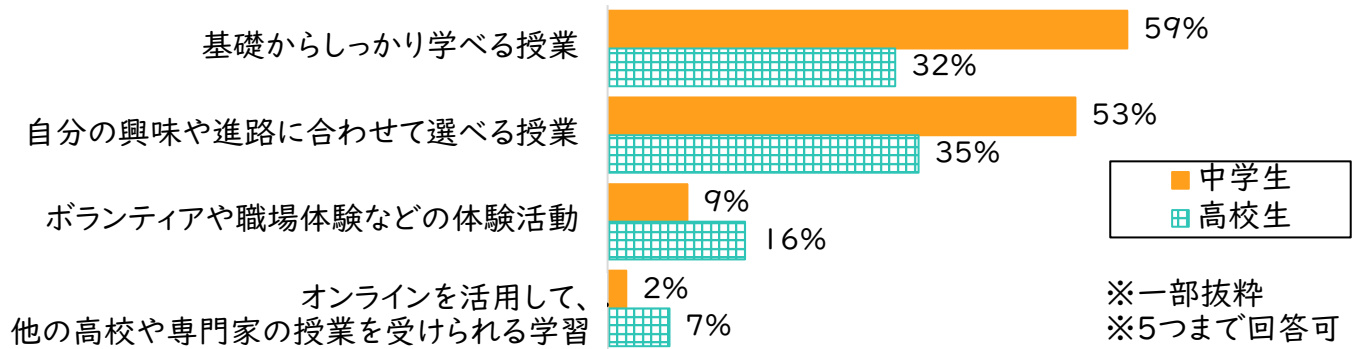
高校入学後のギャップ

高校生の約7割は入学前後のイメージについて「期待以上に良かった」または「ほぼイメージどおりだった」と回答しており、多くの生徒が納得感のある高校選択を行っていることがうかがえます。特に「教育方針や校風・伝統」や「学校行事」、「自分の困りごとに丁寧に対応してくれること」を重視した生徒は納得感が高くなりました。一方で、「合格のしやすさ」や「学費」を重視した生徒では「イメージと違った」と回答する割合が相対的に高くなりました。



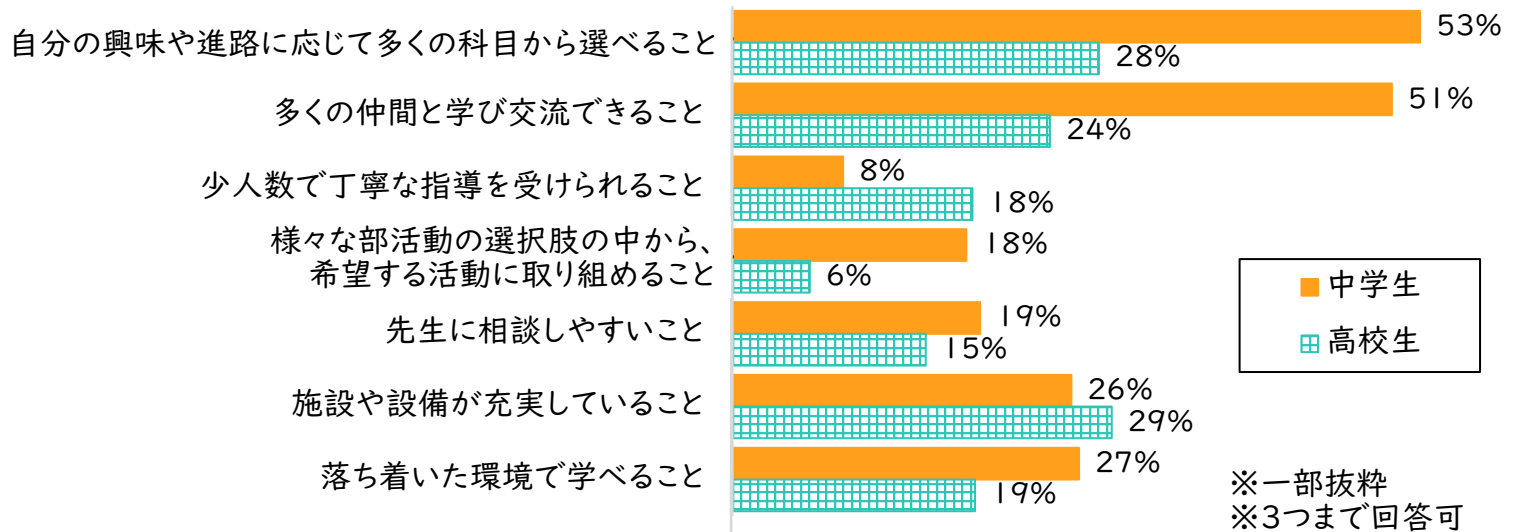
学習内容のニーズ

多くの中学生は「基礎からしっかり学べる授業」や「自分の興味や進路に合わせて選べる授業」を期待しています。一方で、高校生では「ボランティア活動や職場体験などの体験学習」や「オンラインを活用して、他の高校や専門家の授業を受けられる学習」の回答率が中学生と比較して高い傾向を示しました。



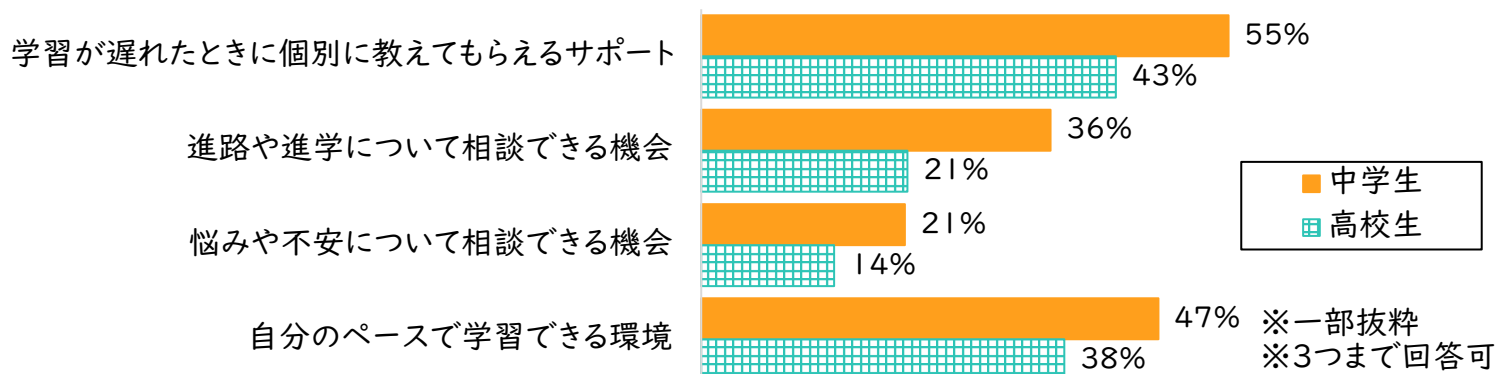
学校生活・教育環境のニーズ

中学生においては「自分の興味や進路に応じて多くの科目から選べること」や「多くの仲間と学び交流できること」の回答率が高くなりました。また、多様な科目選択の機会や、多くの仲間と学び交流できる環境、施設や設備の充実、落ち着いた学習環境などを重視する傾向もみられました。一方で、高校生では「少人数で丁寧な指導を受けられること」の回答率が中学生と比較して高い傾向を示しました。



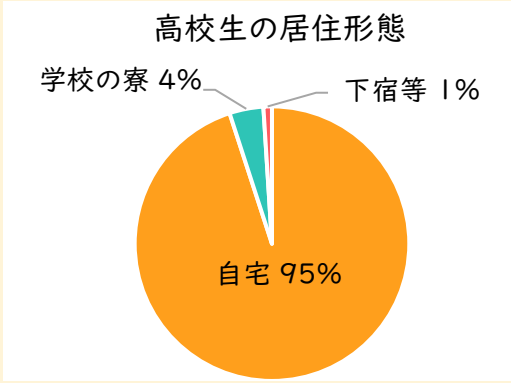
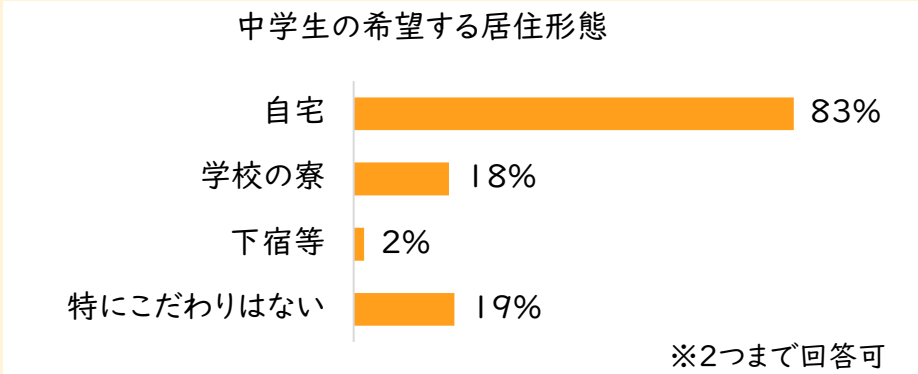
多様な学習支援のニーズ

中学生・高校生のいずれにおいても「学習が遅れたときに個別に教えてもらえるサポート」や「自分のペースで学習できる環境」の回答率が高くなりました。自身の理解度や学習進度に合わせた「個別最適な学び」に対するニーズが高いと考えられます。



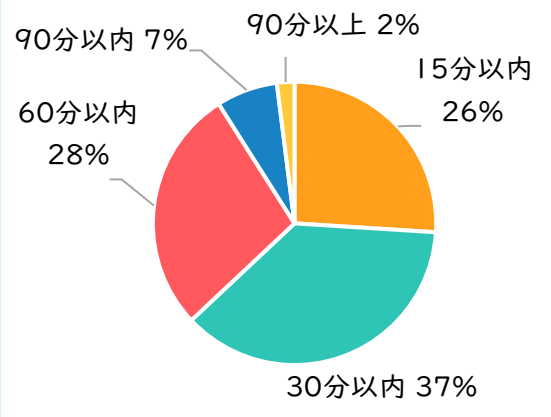
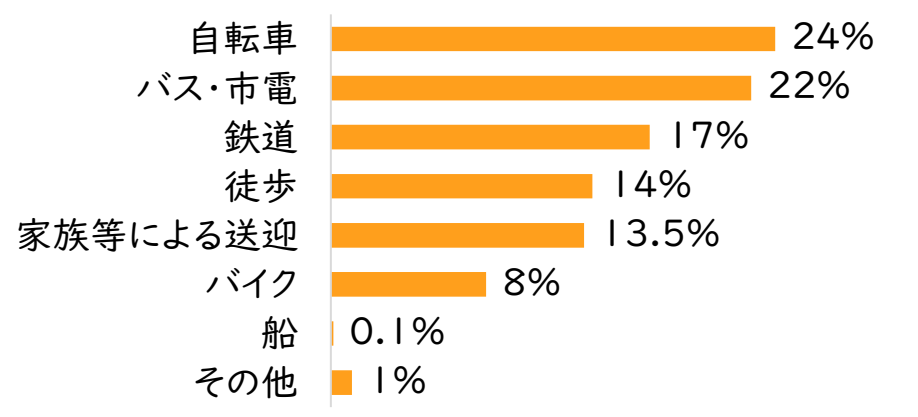
居住形態の希望と実態

中学生の約8割が高校へは自宅からの通学を希望しています。



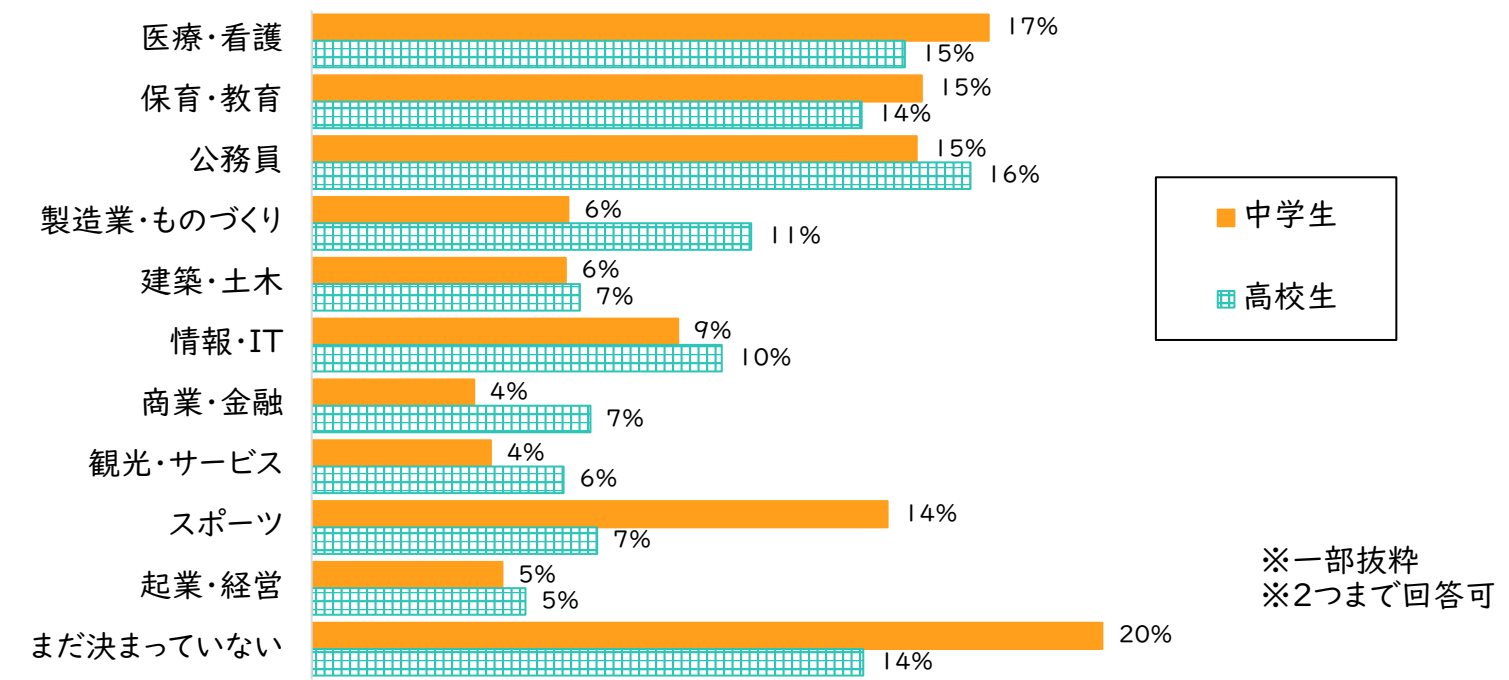
通学方法と通学時間

高校生の通学方法は「自転車」が最も多いですが、徒歩やバス・市電、鉄道など多様な方法が利用されています。通学時間は4人に1人が15分以内となっています。30分以内と回答した生徒まで含めると約6割、60分以内と回答した生徒まで含めると約9割に達します。バス・市電、鉄道、船を利用する生徒は通学時間が長い傾向がみられました。



興味のある職業・分野

中学生・高校生のいずれにおいても「医療・看護」や「保育・教育」、「公務員」が上位に挙がりました。「製造業・ものづくり」や「商業・金融」、「観光・サービス」などでは中学生よりも高校生の方が興味のある割合が高くなりました。高校での学びを通じて技術や専門知識に触れることで、より具体的なキャリアへと関心が移行している様子がうかがえます。



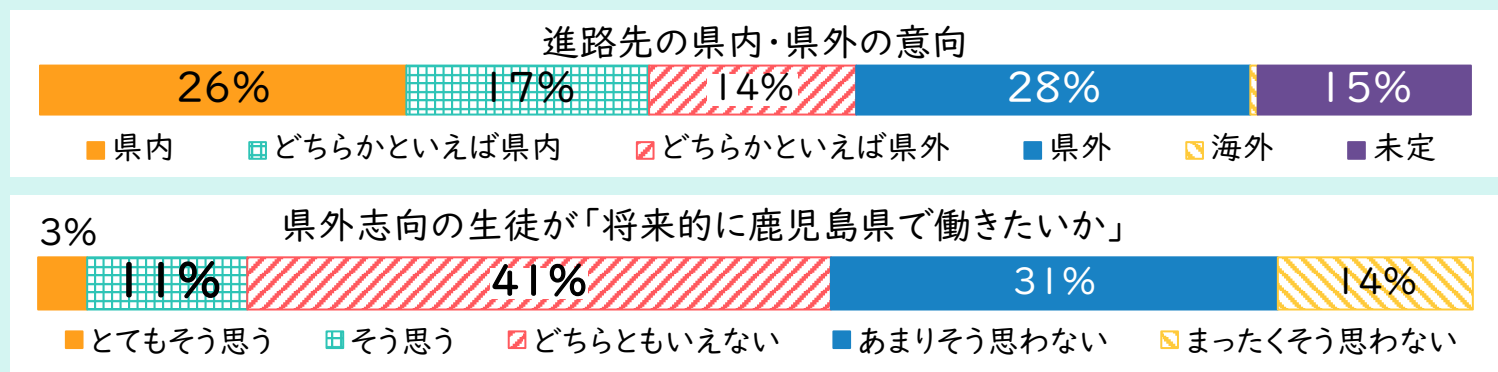
高校情報の入手先

中学生の情報収集源は、Webサイトやパンフレットといった公式情報が中心ですが、家族や友人といった人的ネットワークやSNSも重要な役割を果たしています。



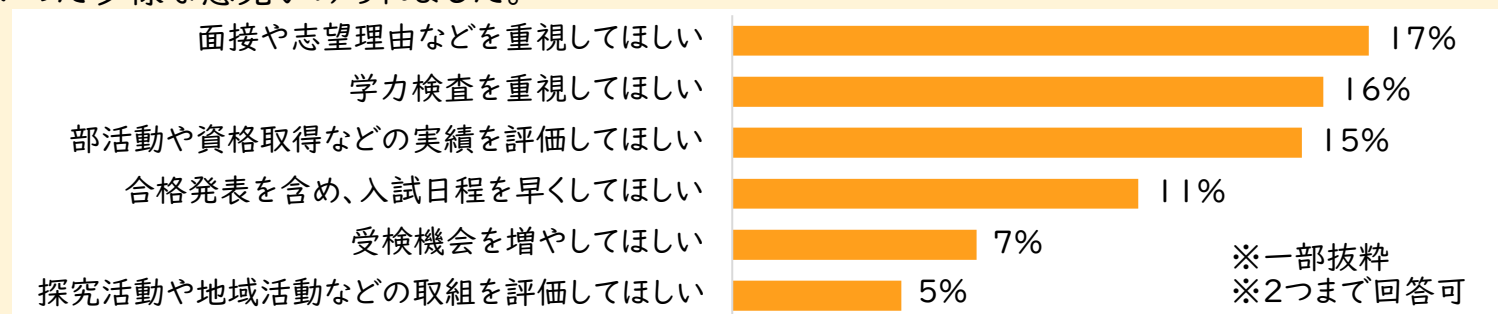
進路先の県内・県外志向と将来の定着意向

高校生の県内・県外志向は同程度となっています。将来の県内定着（Uターン等）に関する意向調査では、現時点で否定的な層が一定数存在する一方で、「どちらともいえない」と回答する県内定着の潜在的な層も4割程度存在することが分かりました。



高校入試の改善要望

高校入試制度について、「学力検査」や「面接・志望理由」、「部活動や資格取得などの実績」を重視してほしいという評価方法に関する要望に加え、「入試日程の早期化」や「受験機会の増加」といった多様な意見がみられました。



探究学習や体験的な学び

高校生の約8割が探究学習や体験的な学習を「楽しくためになる」と感じています。ただし、通信制では「探究学習や体験的な学習に参加したことがない」という生徒が3割近くに上り、他の課程と比較しても探究学習や体験的な学習の機会が少なくなっていると考えられます。

